

大江戸クルージング 浮世絵展

太田記念美術館（東京・原宿）

2017.07.01～07.23



「太田記念美術館」は、旧東邦生命保険社長の故「太田清蔵氏」（1893～1977）の浮世絵コレクションを一般に公開するために開設されたもので、今回の企画展は「江戸の水辺を描いた作品」を集めた展覧会として開催されている。

江戸時代は、現在の東京からは想像もつかないほどで市の中に堀や水路が縦横に張り巡らされ、墨田川や江戸湾に囲まれた「水の都」であった。

当時の「浮世絵」には、墨田川などの川で舟遊びを楽しむ人々や、各地の舟宿から出る乗合船を交通手段として使う人々、そして日本各地から集まってきた物資を江戸市中に運ぶ舟運の様子などが数多く描かれており、水辺と船が庶民生活に密着していた。中でも両国の夏の納涼は一大イベントであり、船遊びや花火を楽しむ人達が大勢押しかけて川面は大小の船が所狭ましと浮かんでいた。



歌川広重《名所江戸百景 日本橋》（左） 歌川国貞《三代豊国 極暑あそび》（右）

展覧会は日本橋をスタートして、日本橋川や佃島近辺、墨田川、小名木川、芝浦など、江戸のさまざまな水辺を描いた作品が紹介されている。（左）

墨田川を一隻の屋根船が進む光景で、「極暑」と題名にあるように夏の熱い最中の墨田川で歌舞伎役者たちが舟遊びをする様子を描いた作品で、船の中には皿に盛られた料理も見える。なんととっても目を引くのは、手前の川で泳ぐ役者らの姿で、泳ぎ方が様々で凝ったユーモラスな泳ぎを披露している。（右）